

【南九州地区納税貯蓄組合連合会会長賞】

公務員と税金

肝付町立高山中学校

二年 富田 梨乃

公務員の給料は、税金から支払われている。しかし、国民が払う税金で公務員が生活することをよく思わない人もいる。そんな人達は公務員のことを「税金泥棒」と呼ぶことがある。教師である父の給料について興味をもち、詳しく調べていたときに、初めてそのことを知った。一生懸命働く父の姿を見てきたからこそ、衝撃的でとてもショックだった。

私は、なぜ公務員の給料が税金から支払われるのかを調べてみた。公務員は主に、公共のサービスを提供する仕事をしている。例えば、警察や救急車など料金を払わずに利用できるものだ。そのため、公共サービスや公共施設を利用するために税金が使われている。それと同じように、人を雇うお金としても税金を使うため、公務員の給料は税金から支払われているのだ。

次に私は、公務員の給料が税金から支払われなくなるとどうなるのか考えてみた。その場合、二つの可能性が考えられた。まず一つ目は、公共サービスがなくなる可能性だ。例えば、警察がいなくなると、犯罪を取り締まる人がいなくなってしまう。そうになると、犯罪や事故が多発し、夜には安心して外を歩くことができなくなってしまうかもしれない。二つ目は、税金から支払われていたお金を、自分達で負担しなくてはならない可能性だ。すると、教師の給料を生徒の家庭が負担しなくてはならなくなってしまう。「キャリアアガーデン」によると、二〇二二年の中学校教師の平均年収は七百四十万円のため、一クラス四十人で一学年二クラスだとして、五教科の先生を一学年、その他の先生を三学年で負担するとすると、私の学校の場合、私の授業を担当しない教科の先生を除いたその他の先生が八人いるため、私の学年は年間一人あたり約七十万円払うことになる。他にも事務や司書など九人の先生がいるので、もっと払うことになるだろう。違う学年にもう一人子どもがいる家庭は、年間百四十万円も払わなければならない。これでは、義務教育を受けられない子どももでてくるだろう。

私達の身の周りには、税金によって支えられているものが沢山ある。私は、税金と公務員について調べてみて、それらのものは国民が安全で充実した生活を送るために必要なものであり、それを支える仕事は公務員なのだと分かった。公務員は、私達の生活に必要な不可欠な存在なのだ。だからこそ私は、公務員という父の仕事にも、国民の一人として税金を納めることにも誇りをもっていたい。